

地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 岩手県

●ケース表イメージ

●ケース裏イメージ



●内側（三つ折り）イメージ



●表紙イメージ



岩手県

本州の北東部に位置し、東西約 122km、南北約 189kmと南北に長い楕円の形をしています。その広さは、北海道に次ぐ面積を誇ります。内陸部では、北上高地と奥羽山脈が美しい山並みを見せ、沿岸部には、リアス式海岸で知られる陸中海岸が広がります。その豊かな自然は、季節ごとにまったく異なる表情を見せてくれます。

岩手県章
岩手県の「岩」を象徴化したものです。豊かな住みよ、郷土へと躍進する岩手県を表しています。昭和 39 年に制定されました。

岩手県の鳥（キジ）
岩手県内全域に生息し、雄は見たままの黒色の美しい羽と長い尾羽を持ち、雌は地味で体が淡黄褐色、体一面に黒点があります。気品にあふれ、勇壮で愛情こまやかな習性は、県民性を表しています。昭和 39 年に指定されました。

岩手県の花（キリ）
岩手県産のキリは、材の光沢が強く淡紫色をおびて美しいので「南部の紫旗」として知られています。軽く脆くはくので、たんす、下駄などに使われています。昭和 30 年に発表されました。

500円ハイカラー・クラウド貨幣

ハイカラー・クラウド貨幣とは、貨幣の裏面に雲を模したハイカラー・技術と、金属板を異なる種類の金属板で挟み込むクラウド・技術を組み合わせたものです。

（岩手県）表裏「中尊寺金色堂新羅堂と毛越寺曲水の宴」

○中尊寺金色堂新羅堂と毛越寺曲水の宴をデザインしています。

※金色堂新羅堂
金色堂全体を覆い、風雨等から保護するため、正応元年（1288 年）に建設されたのが始めとされており、現在の建名（新羅堂）は昭和 40 年に建設された。なお、室町時代中期に建設されたとされる石佛堂も残存しており、国の重要文化財に指定されている。

※毛越寺曲水の宴
毎年5月第4日曜日に毛越寺浄土庭園において開かれ、平安時代まがらの衣装を身に付けた歌人達が流水の水辺に和歌を詠み合う。同寺の遺構は、浄土庭園の発掘調査中に往時の姿のままに見えられたものであり、平安時代の遺構としては希少なものとされる。

額面	500円
素材	ニッケル・黄銅、白銅及び銅
品位	銅75%、亜鉛12.5%、ニッケル12.5%
重量	7.1グラム
直径	26.50メートル
厚さ	1.50メートル
その他特徴	異形孔キジ、巻線等